

連絡網、支援手順など確認 九州建設コンサル 3年度災害時対応演習

（社）建設コンサル
九州建設九州支部（田



中清支部長）は1日、協会本部および全国の支部とともに令和3年度災害時対応演習「写真」を実施し、緊急時の連絡網や支援要請への対応手順などを確認した。

冒頭、同協会の野崎秀則会長は、「災害時に本部と支部間のコミュニケーションがとれるようにすること、被災地への支援体制を確立すること、演習を通じて課題を抽出することの三つが目的。これを実現できるよう、よろしくお願いします」と述べた。

演習は、三重県熊野灘沖を震源とするマグニチュード9の大地震が起これ、静岡県、愛知県、三重県で震度7が観測されるなど、壊滅的な被害が発生したとの想定で実施。テレビ会議システムを使い、本部と各支部がリアルタイムでやり取りをしながら、災害対策現地本部の設置や被災状況の報告、支援要請およびその対応などの手順を確認した。また、九州支部では、会員会社153社に協力要請のメールを送信し、各企業の対応を確認する独自演習を実施した。

演習終了後、田中支部長は、「今回、本部と各支部をテレビ会議システムでつないだが、被災した支部が参加できるのか、また、本部が被災した時に指令を出せるのかなどの課題がある。バックアップ体制についても考えておかなければ、実際に災害が起きた時に機能しないのではないかと述べた。」